

さんま通信



厚生中央病院だより 第63号

冬



新年のご挨拶

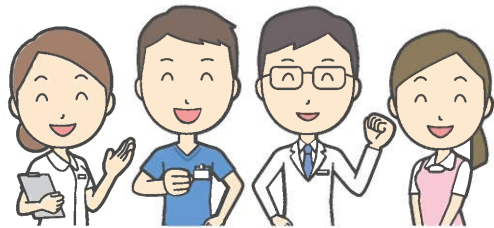
病院長 池田 幸穂



新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

さて昨年度は、年度当初から新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、病院運営にも深刻な影響を及ぼしています。私たちは「with コロナ時代の病院運営」を模索し、先が見えないこの不確実な時代を切り開いていかなければならないと考えています。このような状況だからこそ、当院のロゴマークに示されている地域への貢献・ぬくもり・安心の理念を念頭において職員が一丸となって力強く前進していく所存です。

厚生中央病院は急性期機能を持つ多機能型病院としての役割、また地域中核病院としての役割を担っています。私は、昨年4月に病院長として病院の管理運営を任されていますが、医療の質向上、地域の皆様への良質な医療の提供、職場環境の一層の改善など、与えられた職務をしっかりと果たしてまいりたいと思っておりますので、本年度もご指導のほどよろしくお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。



目次 contents

新年のご挨拶…………… 1～3

失神について知っておきたいこと … 2～3

ホームページが
新しくなりました！ …………… 4



目黒で野駆けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

失神について知っておきたいこと

循環器内科

統括部長 五関 善成

失神とは

失神とは「一過性（数秒～数分）の意識消失発作の結果、姿勢が保持できなくなり、かつ自然に、また完全に意識の回復がみられること」と定義されます。失神を来たす病態は様々ですが、共通する病態生理は「脳全体の一過性低灌流」です。病院へ受診時には、意識は清明であることが多いのも特徴の一つです。

失神の疫学

1,000人の人口に対し1年間に約6人の方が失神を発症すると言われ、わが国では年間約79万人が失神していると推測されます。失神の発生率は若年者と高齢者にピークを有する二峰性の分布を認めます。

失神の原因

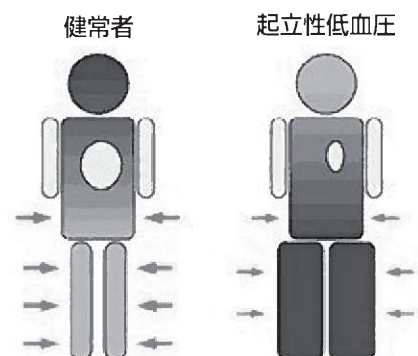
失神の原因は大きく分けると、神経調節性失神、起立性低血圧、心原性失神の3つに分類されます。脳卒中（脳梗塞と脳出血）によるものは少ないと言われています。

1. 神経調節性失神

神経調節失神は①迷走神経反射性失神、②頸動脈洞過敏性失神、③状況失神 に分けられます。①迷走神経反射性失神とは立位数分後に下肢への血液貯留により心拍出量が低下することが誘因となり迷走神経が緊張し、血圧低下や徐脈から失神を来すものです。たとえば長時間電車内で立っていた時などに起こります。②頸動脈洞過敏性失神とは頸部の圧迫や首を回すことによって頸動脈洞が刺激され、迷走神経反射が生じて失神を起こすものです。髭剃り中などに起きることがあります。③状況失神とは排尿、咳嗽、排便、嚥下、息こらえ、嘔吐などにより内蔵迷走神経反射が生じ失神を来すものです。

2. 起立性低血圧

仰臥位から立位になると、心臓への循環血液量が低下し血圧が下がります。通常ではこの変化に対して直ちに自律神経が反応し、心拍出量増加、末梢血管抵抗増加することで血圧低下を抑制します。しかし何らかの原因で血圧低下状態が続くと失神を生じます。原因は、糖尿病などによる自律神経障害、飲酒・薬剤。高齢・長期臥床・脱水などがあります。



3. 心原性失神

不整脈や心臓の弁膜症等、心臓に関わる様々な理由で失神します。

失神の原因別頻度は報告により差がありますが、Framingham研究では、血管迷走神経性21%、起立性低血圧9%、心原性10%、原因不明37%でした。若年者では神経調節性失神の頻度が高く、高齢者では心原性失神、起立性低血圧の頻度が高いです。心原性失神患者の累積死亡率は、非心原性失神や原因不明の失神患者と比較して極めて高く、予後不良でありいかに心原性失神を見逃さないかが重要になります。

心原性失神を疑う所見

- ・横になっているとき、運動中に起きた
- ・繰り返し失神を起こしている
- ・失神時に治療が必要な外傷を起こしている
- ・突然意識を失い、すぐに意識が戻る
- ・失神前に胸痛や動悸などを自覚した
- ・家族で突然死した人がいる
- ・心臓の病気を持っている

上記に加え、65歳以上の方の場合は心原性失神の可能性が高くなります。



なぜ高齢者で失神が起きやすいか

ヒトのからだは、本来あらゆる状態・環境の変化に応じて一定の状態を保つ性質があります。しかし、高齢になるとそれらの機能は低下し、変化に対応し辛くなっていきます。そのため、からだの血流減少や血圧低下を招きやすく、脳への血流が途絶えて失神を引き起こし易くなるのです。

また、筋肉量は加齢とともに低下します。特に、日常生活で使う機会が多い手や腕よりも、歩行などの運動習慣が減ることによって足の筋肉量の低下が顕著です。その結果、足からの静脈血が心臓に戻るための筋肉が静脈を圧迫する力が弱まり、下肢に血液が停滞しがちになります。そのため、全身への血流が悪くなり、脳へも十分に血液が行かなくなるため失神を起こしやすくなります。

失神を予防するために気をつけること

厚生労働省の調査によると、1週間安静臥床で筋力は20%、2週目になると40%低下すると報告されています。つまり、何もしないでいると、筋肉と筋力は落ち続けて行きます。適度な運動をする、もしくは歩行が困難でも椅子に座る時間を作るなど、下肢を鍛えることは、失神に限らず転倒や骨折などが減り、生活の質の向上へ繋がると思います。また、自律神経を改善するために、早寝早起きなど、生活習慣を見直すことも必要です。

おわりに

失神の原因によっては予後良好で生活習慣の見直しで対応できるものもありますが、心原性失神の予後は不良であり見逃さないことが重要です。失神を起こした場合は一度循環器内科受診をお勧めします。



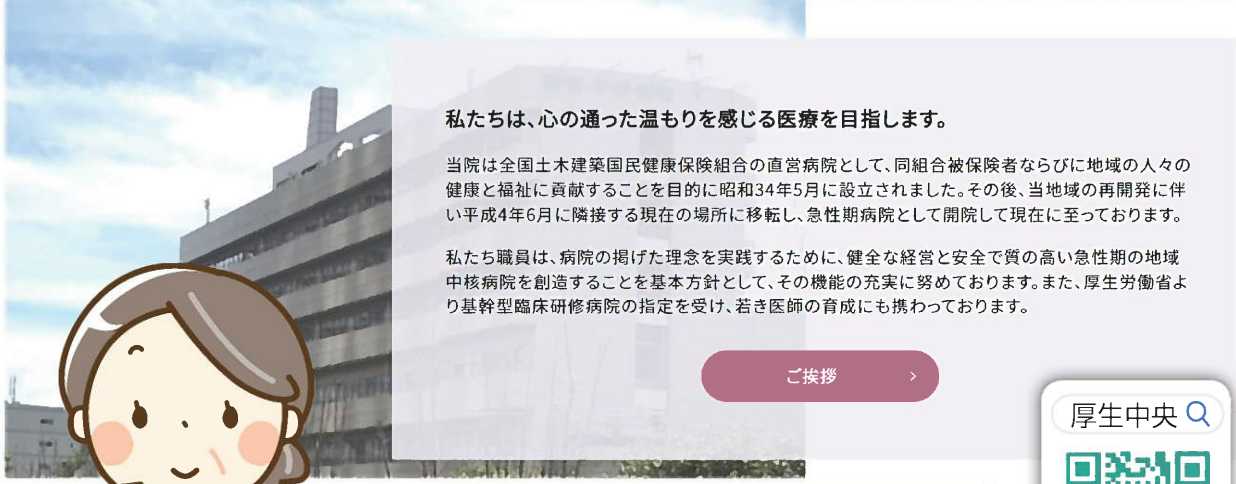
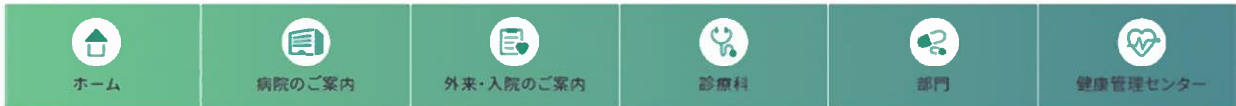
ホームページが新しくなりました!

診療予約(初診も可)/平日: 9:00~16:00

☎ 03-3716-8124



検索 お問合せ アクセス 採用情報 医療関係者 English



私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。

当院は全国土木建築国民健康保険組合の直営病院として、同組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献することを目的に昭和34年5月に設立されました。その後、当地域の再開発に伴い平成4年6月に隣接する現在の場所に移転し、急性期病院として開院して現在に至っております。

私たち職員は、病院の掲げた理念を实践するために、健全な経営と安全で質の高い急性期の地域中核病院を創造することを基本方針として、その機能の充実に努めております。また、厚生労働省より基幹型臨床研修病院の指定を受け、若き医師の育成にも携わっております。

ご挨拶

厚生中央



スマホでも見やすくなりました



厚生中央病院 きんま通信 No63 2021

発行元: 総合病院 厚生中央病院 地域連携広報室

〒153-8581 東京都目黒区三田1-11-7
TEL: 03-3713-2141 FAX: 03-3713-8021
E-mail: renkeisitu@konseichuo.jp
URL: http://www.kohseichuo.jp